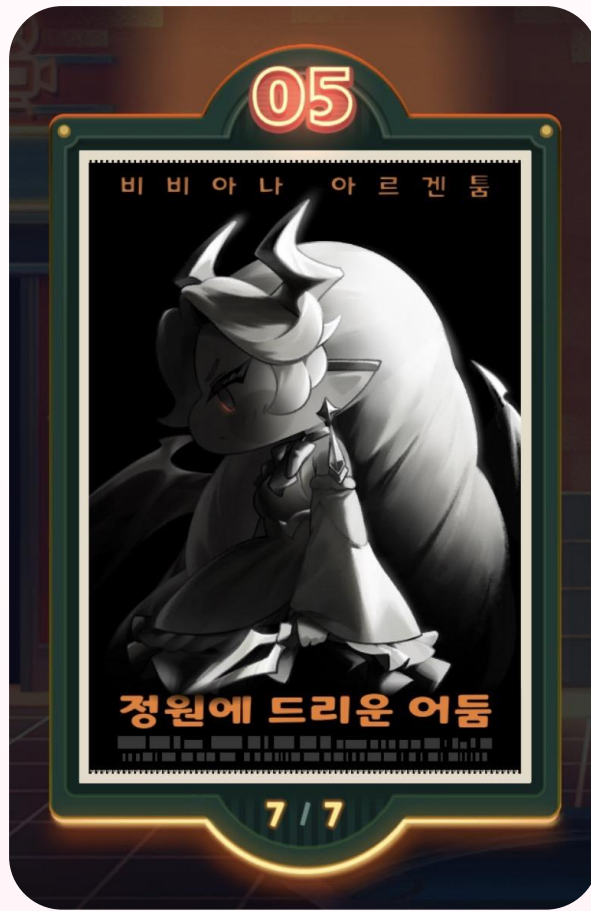


庭に垂れ込める闇



収録章

- 第1章 断れない提案
- 第2章 迫りくる脅威
- 第3章 妖精たちの失踪
- 第4章 主なき庭で
- 第5章 襲い来る危機
- 第6章 幼き日の傷
- 第7章 言えなかった本心

CHAPTER
1

第1章 断れない提案



ヴィヴィ

よく眠れましたか？ 銀石公。今日もよい朝でございますわ。



ヴィヴィ

爽やかな一日のために、わたくしが特別に選曲した音楽をお聴きなさいませ。



ヴィヴィ

いかがですか？ エルチューブで、わたくしが心血を注いで選び抜いたのですわ。



ヴィヴィ

聴いているだけで、優雅な淑女になった気分になりませんか？



ヴィヴィ

わたくしがこのプレイリストを選ぶのに、どれほどの努力を注いだことが……。



ヴィヴィ

エルフたちの音楽は本当に多種多様で、役に立たないものも多かったですわ。



ヴィヴィ

その中でも、銀石公にふさわしい音楽を選び抜いたのでございますわ。



ヴィヴィ

銀石公。この音楽がお気に召したなら、何もおっしゃらないでくださいませ。



ヴィヴィ

しーっ。



ヴィヴィ

おほほっ！ お気に召したようで何よりですわ。



ヴィヴィ

銀石公、今なんとおっしゃいました？



ヴィヴィ

え？ お散歩に行きたいとおっしゃったのですか？



ヴィヴィ

今日は少し難しそうですわ。



ヴィヴィ

最近、あれこれと妖精たちがわたくしに不満を抱いているのですわ。



ヴィヴィ

散歩に出れば、後ろ指をさして陰口を叩かれるのが常ですもの。



ヴィヴィ

以前のように、直接部屋まで侵入して嫌がらせをすることはなくなりましたけれど。



ヴィヴィ

たぶん、この部屋に監視カメラも付けて、侵入警報機まで設置したからでしょうね。



ヴィヴィ

どうしてもお散歩に行きたいのですか？



ヴィヴィ

そんなふうに駄々をこねても駄目ですわ。



ヴィヴィ

もうお忘れになったのですか？



ヴィヴィ

数日前にも、裏路地に入ったら悪い妖精たちが後をつけてきたではありませんか。



ヴィヴィ

あの時、仮面をつけた何者かが助けてくれなかったら、本当に大変なことになるところでしたわ。





ヴィヴィ

その方にお礼を申し上げようとしたのに、何も言わずに消えてしまいましたけれど。



ヴィヴィ

誰なのか、わたくしにもよく分かりませんわ。



ヴィヴィ

わたくしをこっそり助けてくれる、正義のヒーローだったのではないかと思うのですが……。



ヴィヴィ

名前を尋ねても、答えてはくださらなかったのですわ。



ヴィヴィ

ふむ、もしかすると自警団かもしれませんね。



ヴィヴィ

とにかく！妖精たちは善良そうに見えても、生まれつき怠け者で、凶暴なのですわ。



ヴィヴィ

甘く見えても、決して侮ってはいけません。



アイシア

おい、ヴィヴィだか何だかはここにいるんだろ？



ヴィヴィ

え？わたくしがヴィヴィでございますわ。どなたが、わたくしを訪ねていらしたのですか？



アイシア

ちょっと話したいことがある。ドアを開けて。

効果音
ガチャッ！



ヴィヴィ

どなた……？



アイシア

私を知らないの？ フロストノヴァの会長、アイシアよ。



ヴィヴィ

まあ、だいたいは存じております。わたくしも一時期はモナティアムで暮らしていましたから。



アイシア

そう？ なら話が早いわね。



ヴィヴィ

……どういったご用件で、わたくしを訪ねていらしたのですか？



アイシア

おっ！ 見つけた！ これが例の銀色の卵ね！



アイシア

聞き回って来てみたけど、本当だったじゃない？



ヴィヴィ

なぜあなたのようなエルフが銀石公を探しているのですか？



ヴィヴィ

いえ、その前に、銀石公がここにいるとどうして分かったのです？



ヴィヴィ

お下がりなさいませ！ それ以上勝手に近づくなら、黙ってはいませんわ。



アイシア

何？ 今、私を脅してるの？



アイシア

私が誰か分かって、そういう態度に出るわけ？



ヴィヴィ

必要とあらば、できないことはありませんわ。



アイシア

まあ、いいわ。私がここに来たのは、あんたに提案したいことがあるからよ。



ヴィヴィ

提案、とおっしゃいました？



アイシア

ふう……そう、あんたに断れない提案をしてあげる。



ヴィヴィ

いったいどんな提案なら、断れないと言えるのです？



アイシア

単刀直入に言うわ。このお金で、その卵を買う。



アイシア

どう？ あんたたち庶民じゃ、一生触れることもできない金額でしょ？



アイシア

ケチらずに入れておいたから、湯水のように使っても足りなくはないはずよ？



ヴィヴィ

銀石公を……お金で買うというのですか？！



アイシア

そうよ。これでも受け取って、どこかへ消えなさいってこと！ おほほっ！



ヴィヴィ

馬鹿なことを！！



ヴィヴィ

そもそも、竜族の卵を何だと思っていらっしゃるのですか？！



アイシア

何よ？ この金額で済むわけ？



アイシア

はあ？ 竜族だから頭が悪いと思ってたけど……交渉くらいできるのね？



アイシア

いいわ、こうなるとしてもう一つ用意しておいたの。このくらいなら文句ないでしょ。



アイシア

どう？ この金額なら、少しは心が動いた？



ヴィヴィ

くだらないことをおっしゃらないで！ わたくしにとって、お金が大事なのではありませんわ。



アイシア

え？ お金が大事じゃないって？



ヴィヴィ

ええ！ たかが紙切れ同然のお金で銀石公を渡せだなんて！ あり得ませんわ！



アイシア

そう？ お金よりエリーフのほうがいいの？



アイシア

エリーフを詰めたバッグで用意し直そうか？



ヴィヴィ

いいえ！ どれほどのエリーフを差し出されようと、わたくしが銀石公を渡すことはありませんわ！



アイシア

いや、なんでよ??



アイシア

あんた、まさか……！！



アイシア

その卵、自分で産んだの?!



ヴィヴィ

え……？ そ、そんなはずがあるわけないでしょう?!



アイシア

まあ、そりゃそうよね。



アイシア

いや、でもなんで売らないの？ あんたのものでもないでしょ！



ヴィヴィ

この卵からは、竜族社会でみんなに可愛がられる竜族が生まれる予定なのですわ！



ヴィヴィ

竜族の長、ダイヤモンドが直接わたくしに託したのです！



ヴィヴィ

ですから、おとなしくお帰りくださいませ！



ヴィヴィ

そもそも、あなたのようなエルフがなぜ銀石公を欲しがるのですか？



アイシア

そ、それは……知らなくていいの！



アイシア

この金額で渡して、失くしたって言えばいいじゃない！



ヴィヴィ

今、わたくしのお話を聞いていらしたのですか？



ヴィヴィ

わたくしは絶対に銀石公を渡すつもりはありません！！



アイシア

はあ、そういう態度に出るわけね……。



アイシア

後悔するわよ？



ヴィヴィ

ふん、そんなくだらない脅しが、わたくしに通じるとお思いですか？



アイシア

.....

効果音
ドンッ！



ヴィヴィ

まったく、呆れてしまいますわ。



ヴィヴィ

あまり心配なさらないくださいませ、銀石公。



ヴィヴィ

わたくしが銀石公をお守りいたしますわ。



ヴィヴィ

何があろうとも、必ず！わたくしの名誉にかけてでも。

第1章 断れない提案 終

CHAPTER
2

第2章 迫りくる脅威



ヴィヴィ

まったく、エルフたちは面の皮が厚いですわ。



ヴィヴィ

竜族の卵をお金で買おうだなんて、通る話ですか？



ヴィヴィ

銀石公は、お金よりもっと本質的なものを追い求めるようになさいます。



ヴィヴィ

うーん、お金より大切なものとは何でしょう？



ヴィヴィ

たとえば、健康、信頼、愛……。



ヴィヴィ

……



ヴィヴィ

わたくしが言っても説得力はないでしょうけれど、心に刻んでおきなさいませ。



ヴィヴィ

横歩きのカニだって、友達には前に歩けと言うものですから。



ヴィヴィ

それにしても……最近、銀石公を脅かす出来事が増えてきたわ。



ヴィヴィ

妖精たちの嫌がらせもあったし……エルフが銀石公を買うと言い出したりもしたし……。



ヴィヴィ

もう、わたくしが奉仕活動をしている間、銀石公をひとり部屋に置いておくわけにはいかないわね……。



ヴィヴィ

誰かにしばらく預かってもらえないかしら……。



ネル

つまり……ヴィヴィさんが奉仕活動をしている間、卵を預かってほしいということですか？



ヴィヴィ

……そうでございますわ。銀石公をお願いいたします。



ネル

銀石……公、ですか？



ヴィヴィ

いつまでも卵と呼ぶのも何ですから……愛称で呼んでいるのですわ。



ネル

うーん、そうなんですね。



ヴィヴィ

その……厚かましいお願いだということは、わたくしもよく分かっておりますわ……。



ヴィヴィ

卵を預かることになったのも、奉仕活動することになったのも、すべてわたくしの自業自得です。



ヴィヴィ

ですが最近、妖精たちがわたくしの部屋にこっそり侵入したこともありましたが、他にも銀石公を狙う者がいたのですわ。



ヴィヴィ

お願いいたします、司祭長様。



ヴィヴィ

わたくしが奉仕活動をしている間だけでも、銀石公を預かってはいただけませんか？



ネル

……



ネル

いいですよ。



ヴィヴィ

え？ 本当によろしいのですか？



ネル

もちろんです。駄目な理由なんてありますか？



ネル

私が仕事をしながらそばに置いて、しっかり見守っていただければいいんですよね？



ヴィヴィ

そうでございますわ。そうしてくださればよいのです。



ネル

どこかへ行く時は、このベビーカーを押していけばいいですし。



ネル

このくらいなら、特に難しいことでもなさそうですね。



ヴィヴィ

その……ありがとうございます、司祭長様。



ネル

あの、ヴィヴィさん。



ネル

ヴィヴィさんが奉仕活動中だということも、女王様がヴィヴィさんを許したことも分かっています。



ネル

だからといって、私がヴィヴィさんを完全に許したわけではありません。



ヴィヴィ

……そう、ですね……。



ネル

女王様がヴィヴィさんのせいで、どれほど心を痛めていたかは分かっていますよね？



ヴィヴィ

ええ……分かっておりますわ。



ネル

分かっているならよかったです。これからも罪を悔い、反省するようにしてください。



ネル

その……私も、できる限りあなたを許せるよう努力しますから。



ネル

はあ……教主様も、女王様もヴィヴィさんを許しましたが……私はなかなか難しくて。



ネル

ヴィヴィさんを見ると、女王様が悲しんでいた姿を思い出してしまうんです。



ネル

それでも、努力はしています。



ネル

世界樹様も、きっとそれを望んでいるでしょうから。



ヴィヴィ

世界樹が……そんなことを望むはずがない……。



ネル

え？ 今、何とおっしゃいました？



ヴィヴィ

……何も。何でもありませんわ。どうかよろしく願いたします。



シーザー

おやおや。会長さんのほうから先にミーティングを申し込んでくるとはね。



シーザー

お互いに裏切り合ったのに、もう顔を見るのも嫌ってわけじゃないの？



シーザー

私たち、また終わり方が悪くなりそうだけど。



アイシア

私は気にしない。



アイシア

一度ずつやり合ったんだから、引き分けでしょ。



シーザー

それでそういうことになるのか？



アイシア

だから過去のことは水に流して、一緒に未来を企もうってこと。



シーザー

まあ、いいだろう。二番手企業のCEOらしく、未来を見る目はあるようだな。



アイシア

二番手企業のCEO？ おい！ 二番でも十分すごいんだけど？



シーザー

ああ、誰も駄目だったなんて言ってないだろ？ さっさと本題に入ろう。



シーザー

それで、この私を呼んだ理由は何だ？



アイシア

シーザー、あなたにやってほしいことがある。



アイシア

報酬は、あなたが本当に欲しがっていた物になるはずよ。



シーザー

私が本当に欲しがっていた物？



アジア

今、私の手にあるものが何か分かる？



アジア

そう、『メロンメロンハンバーガーセットのレシピ』よ。



アジア

これさえあれば、いくらでもメロンメロンハンバーガーを作って食べられる。そういうこと。



シーザー

本当か?! 本当にメロンメロンハンバーガーセットのレシピなのか?!



シーザー

ちょっと待て! お前、前にもそのハンバーガーで私を騙しただろ!



シーザー

一度見せてみる! 本物か、偽物か確かめてやる!

レシピ

メロンメロンハンバーガーセット レシピ。

用意するもの：メロン果汁を軽くコーティングしたバンズ、メロン果汁に二日間漬けた肉パティ……。



シーザー

これは本物のメロンメロンハンバーガーのレシピじゃないか?!



シーザー

……でも、なんで一枚だけなんだ? 残りは?



アジア

残りは任務が終わったら渡してあげる。



アジア

私の指示した仕事を一つこなすたびに、一枚ずつ渡すわ。



シーザー

ちっ。そういう手で来るとはな。



アジア

それで……どう？ やるの？ やらないの？



シーザー

どんな仕事か、聞いただけ聞いてやろう。



アジア

よし、教えてあげる。教団に潜入して、ある物を一つ盗むの。



シーザー

物を盗めだと？ 教団から？



アジア

そう。教団の客室に、ヴィヴィというやつがいるの。



アジア

その竜族が銀色の卵を一つ持ってるのよ。その卵を盗むの！



シーザー

あまり気が進まないな。私はヴィランであって、こそ泥じゃない。



シーザー

それに、下手に教団に手を出して、教主と関わることになりそうだしな。



アイシア

ねえ、あんた馬鹿なの？ 教団がヴィヴィに興味なんてあると思う？



アイシア

最強のヴィランなのに、教主が怖くて降りるっていうの？



アイシア

私が頼もしい後ろ盾になってあげるのに、これを諦めるわけ？



アイシア

降りたいなら降りなさい。その代わりに、あんたは一生レシピを逃して後悔することになるわよ。



シーザー

うっ、どうする……むやみに教主に手を出したくないし……。



シーザー

かといって、レシピを諦めたくもない……！！



アイシア

私と一緒に卵を盗む？ それとも一生後悔して生きる？



アイシア

三秒あげるわ、シーザー。



アイシア

三……二……一……。



アイシア

一秒半、一秒半の半分、一秒半の半分の半分……。



シーザー

あ、分かった！やる、やるってば！



アイシア

ひひっ！じゃあ、やるのね？さっさと契約書でも書きましょ！



シーザー

ちょっと待て、その前にこれを書いてからだ。



アイシア

え？あんた何してるの？



シーザー

謎めいた予告状を書いている！



シーザー

物を盗む前に警告するんだ！怪盗みたいにな！キャハハッ！



アイシア

いや、そんな無駄なことを何でやるのよ？



シーザー

これが私の流儀だからだ！ ちょうど書き終わったぞ！



アイシア

ちょっと見せてみなさい！ いったい何て書いたのよ……。

予告状

夜が最も明るい日。
銀の光が眠る揺りかごを訪れよう。
希望を奪われし場所には、絶望だけが染み込むだろう。



シーザー

どうだ？ 誰が見ても名文だろう？



アイシア

……それをどこに送るつもりなの……？



シーザー

もちろん教団だ！ 司祭長宛てに送る！



アイシア

……



アイシア

もう放っておこう。見るからに、どうせ誰にも理解できなさそうだし。



アイシア

いや、その前にスパム扱いされるにはびったりね。

第2章 迫りくる脅威 終

CHAPTER
3

第3章 妖精たちの失踪



ポーラン

朝の点呼を実施する。部隊、気をつけ！

警備隊員

部隊、気をつけ！ 隊長に向かって敬礼！

効果音
ビシッ！



ポーラン

よし、まずはチェックリストを確認する。



ポーラン

城門の開閉状態確認。異常なし。



ポーラン

夜間勤務の交代確認。異常なし。



ポーラン

武器の手入れおよび状態点検。確認完了。



ポーラン

補給品の数量は……常に不足しているのが正常。



Pōran

女王様の朝食の有無を確認。確認完了。



Pōran

よし。問題ないな。ほかに報告事項はあるか？

Nettsu

あの、Pōran隊長……！！



Pōran

どうした、Nettsu。

Nettsu

その、昨夜のうちに失踪届が受理されました。



Pōran

失踪届？前後の状況もあわせて報告したまえ。

Nettsu

失踪者の友人が届け出たもので、前後の状況は以下の通りです。

Nettsu

毎朝エシュールのパン屋でパンを買っていた妖精が、三日前から姿を見せないそうです。

Nettsu

それを不審に思った友人が、警備隊を訪ねてきました。以上！



ポーラン

妖精がひとり、三日前から姿を見せない、か……。



ポーラン

待て、昨日も失踪事件が受理されていなかったか？

ネッツ

はい！昨日と今日に受理された件数は……合計五件です。



ポーラン

五件か……無視できない数だな。



ポーラン

以前にも、これに似た事件があったような気がするが……。



ポーラン

そうだ！思い出した。これと似た事件が！



ポーラン

あの時に受理された失踪件数も五件！



ポーラン

失踪届を受けて出勤したら、失踪したと思っていた連中が全員コマに夢中になって、ハウスで昼夜問わずコマを回していたのだ。

ネッツ

あっ！そんなことがありましたね！私も覚えています！！



ポーラン

出動準備だ！ コマハウスへ向かう。

警備隊員

はい！！



カンタ

うわあっ！ いい狙いだっただぞ！



カンタ

私のコマを弾き返そうとして、改造で小細工したんだな？



カンタ

だが、ここは私の縄張りだ。この区域で私に勝つには、まだまだ早い！



カンタ

さあ、賭けに負けたんだから、パンを置いてとっとと消え——

効果音
ガシャーン！



ポーラン

コマは全部押収しろ！ 全員捕まえろ！！



カンタ

な、何だ？！ 警備隊がいきなり？！

警備隊員

隊長！包囲しました。ご命令を！



ポーラン

お前、今何をしている……？



ポーラン

ふう……この手も久しぶりだな。

効果音
ドカッ、バキッ！！



カンタ

うわああっ！痛い！痛いって！いきなり何なんだよ？！



カンタ

いや！何で問答無用で殴るんだよ！



カンタ

理由くらい！理由くらい知ってから殴らせろ！！



ポーラン

全員、戦術教範通りにやれ！三人一組、前後左右、百二十度で取り囲み、無差別に尋問しろ！



ポーラン

相手は三十分以内に、我々の望む答えを吐くはずだ。



ポーラン

各自、担当した相手を徹底的に問い詰める！！



カンタ

だ、だから私が何をしたっていうんだよ？！



ポーラン

質問するのは私だ！聞かれる前に答えるな！



カンタ

ぐあっ、うわあっ！や、やめろ！もうやめてくれ！！



ポーラン

失踪した妖精たちはどこだ？



カンタ

失踪？何の失踪だよ！！



ポーラン

知らない？知らないなら、分かるまで耐えろ！



カンタ

うわああっ！知らないって！本当に知らないんだああー！！

場面転換
十五分後——



ポーラン

失踪した妖精はどこに隠した？すべて吐け！



カンタ

わ、私が誘拐したみたいです！私も知らないうちに誘拐していたみたいです！！



ポーラン

誘拐したみたいだと？まだまともに答えられないようだな。続ける！

効果音
ドタン！！



カンタ

うわあっ！すみません！何を間違えたのかは分かりませんが！！すみませえん！！

場面転換
三十分後——



ポーラン

ふう。三十分も問い詰めたのに、答えられないか。



ポーラン

全隊員！やめ！カンタは知らないことが確定した。



カンタ

だから言っただろ！本当に知らないって！



ポーラン

はっ！口の利き方が少し短いな？



カンタ

私が申しあげましたよね。本当に知らないんです。



ポーラン

よし、お前の潔白は証明された。行っていい。



カンタ

コマは……返してください……。



ポーラン

いや、押収だ。賭博場の証拠品はすべて押収する。



カンタ

うわああん、ひどいですー！！



ポーラン

本来は実績がない時に踏み込むため、残しておいた場所なのだが……惜しいことをしたな。



ポーラン

ふむ、これからどうする……？

ネッツ

その……隊長。普通に、失踪した妖精たちの家を訪ねるほうが早いのでは？



ポーラン

こほん、そうだな。そうしよう。そうするつもりだった。



ポーラン

全部隊、集合！これより分隊ごとに、失踪した妖精たちの家を訪問する。

警備隊員

はい！ただちに準備します！

効果音
タタタッ！

効果音
バタン！



ポーラン

警備隊長ポーランだ。失踪届の調査のため訪問した。



ポーラン

家主？家主はいないか？

警備隊員

隊長！失踪した妖精を発見しました！



ポーラン

ん？

警備隊員

その……眠っています。



ポーラン

眠っているだと？ 何だ。本当に眠っているじゃないか。



ポーラン

おい、起きろ！ 警備隊長ポーランだ。



ポーラン

.....

効果音
ゴツン！



ポーラン

げんこつを食らわせても起きないのか？



ポーラン

……何かおかしいな……。



ポーラン

……



ポーラン

キャストター。眠っている妖精を王宮の地下室へ運べ！

警備隊員

はい！



ポーラン

残りは次の場所へ移動する。

効果音
バタン！

警備隊員

隊長、あちらにも失踪した妖精がいます！

警備隊員

今回も眠ってい……？



ポーラン

おい、君、大丈夫か？

効果音
ゆさゆさ——

警備隊員

今回も意識がありません。



ポーラン

ふむ……そのようだな。



ポーラン

……



ポーラン

失踪した妖精が全員、自分の家で眠っていたとは……。



ポーラン

どれだけ揺すっても目を覚まさず、意識も、身じろぎもない？



ポーラン

……いったい何が起きている……？



ポーラン

全隊員！ 眠っている妖精たちを全員、王宮へ運ぶ！



ポーラン

そして今回の事件については、全員口外しないように！



ポーラン

噂にでもなった日には、王国全体に大きな混乱が訪れるだろう。

警備隊員

はい!!!



ポーラン

……今回の事件は、教主様と相談してみる必要がありそうだ……。

第3章 妖精たちの失踪 終

CHAPTER
4

第4章 主なき庭で

教主

モナティウムから来た公文は、昨日全部処理したし……

教主

近いうちにまた旅に出られそうだ。

教主

午前の宴会場の業務は……まあまあ完了。

教主

うーん。ばたばたしていて、まだ昼食も食べてないな……。

教主

リコッタに昼食でも作ってもらおうかな。



ポーラン

教主様、こちらにいらしたのですね。

教主

ポーラン？



ポーラン

折り入ってお話したいことがあります。



ポーラン

これをどうお伝えすればよいのか……。

教主

何があったの？ 顔色がよくないけど？



ポーラン

それが……昨日と今日で受理された失踪事件が五件あります。



ポーラン

そこで警備隊が別途調査を行ったところ、
失踪したとされていた妖精たちは全員、眠っていました。

教主

妖精たちが全員眠っていたって？



ポーラン

はい！身じろぎもせず、いくら起こしても目を覚ましませんでした。



ポーラン

それどころか、げんこつを食らわせても起きませんでした。

教主

妖精たちが眠った理由は？



ポーラン

正確に判明したことはありませんが……。



ポーラン

事件の始まりは、三、四日前と推測されます。



ポーラン

昔から妖精たちが長い眠りにつくことは時々ありましたが、
数日の間に五人も眠るとするのは珍しいことです。



ポーラン

妖精たちは長く眠る時期になると、
一般的には本人もそれを自覚しています。



ポーラン

周囲にも自分が眠ることを伝えているはずですし、
このような形で失踪届が出ることもなかったはずです。

教主

……眠った妖精たちはどうしたの？



ポーラン

方針に従い、教団の地下へ移してあります。

教主

そうなんだ……警備隊以外に、この件を知っている妖精は？



ポーラン

まだいません。ひとまず口止めをしている状態です。

教主

分かった。知らせてくれてありがとう。

教主

私も関連して調べてみて、情報を共有するよ。



ポーラン

はい、ありがとうございます。教主様。

教主

急に妖精たちが眠った、か……。

教主

こういうことが分かりそうな子といえば、やっぱり……。

ヤドリギ

妖精たちが五人も眠ったって？！

教主

うん。でも、正確な理由が分からないんだ。

教主

ブルミが眠った時みたいに、世界樹の影響なのかな？

教主

それとも、もしかして君がエルフィンに力を分け与えたせいなのか？

ヤドリギ

え？ ええっと……それは……

ヤドリギ

私にもよく分からないかな？

教主

よく分からないんだね？

ヤドリギ

うーん、私もこういう場合は初めてだから……。

ヤドリギ

もしかして、眠ったって妖精たちを見せてもらえるかな？

教主

見れば分かるの？

ヤドリギ

そういうわけじゃないけど……見て損はないんじゃないかな……？

教主

分かった。一緒に地下室へ行ってみよう。
私も妖精たちの状態を一度見ておきたい。

教主

どう？何か分かりそう？

ヤドリギ

うん、ひとまず確かに眠ってる……。



教主

それはエルフィンが見ても分かるけど？

ヤドリギ

あ、はは……た、確かに……それは見れば分かることだよね……。

ヤドリギ

でも、エルフィンと比べるなんて……ひどいよ……。

ヤドリギ

教主は何か分かったことないの？

教主

何か少し変だ。

教主

身じろぎもせず眠っていることも、起こしても目覚めないことも、顔色が青白いことも……

教主

これは眠っているというより、まるで……。

ヤドリギ

どうしたの？

教主

え？ いや。何でもない……。

教主

妖精たちを起こす方法はないかな？

ヤドリギ

もっと強く揺さぶってみる？ そうしたら起きるかも？

ヤドリギ

それとも、げんこつでも食らわせてみるのはどうかな？

教主

別の方法を探そう。教団の時みたいに起こすことはできる？

ヤドリギ

うーん、できるかもしれない。世界樹の力を使えば……。

ヤドリギ

溜めておいた力を少し使うことにはなるけど……教主が起こしたいなら……。

教主

いや、これは最後の手段として残しておこう。

教主

これから妖精たちがもっと眠るかもしれないだろ。
そのたびに全員を君の力で起こすのは難しそうだ。

ヤドリギ

そ、そうだよな？

ヤドリギ

うう、私も何か役に立ちたいんだけど……。

教主

眠りにつく現象そのものを止めることはできないんだよね？

ヤドリギ

うん、私には難しいかな
一人や二人じゃなくて、同時多発的に眠っているなら……。

教主

同時多発的に眠る、か……これはまるで……。

教主

伝染病みたいじゃない？

ヤドリギ

伝染病？で、でもエーリアスなら、みんなすぐに治るんじゃないかな……？

教主

もし、世界を維持する力が弱まっているとしたら？

教主

スマホのバッテリーが残り少なくて、省電力モードをオンにする時みたいに。

教主

そういう意味で世界が省電力モードに入って、維持に不要な機能を一つずつ切っているのだとしたら？

ヤドリギ

妖精たちが眠る理由が、それだっていうの？

教主

確かなことじゃない。あくまで私の推測だから。

ヤドリギ

もし教主の言うことが本当なら……。

ヤドリギ

これから、もっとたくさんの妖精たちが眠ってしまうかもしれないね？

ヤドリギ

た、大変だね？ これ、どうしよう？

ヤドリギ

一夜にして何十人もの妖精が倒れるかもしれないし……。

教主

もしかすると、そうなるかもしれない。

教主

……妖精たちだけなのかな？ 他の種族は大丈夫なんだろうか？

ヤドリギ

正確には分からない。でも、私の考えでは……。

ヤドリギ

エーリアスのみんなが、今回の現象と無関係ではられない気がする。

第4章 主な庭で 終

CHAPTER
5

第5章 襲い来る危機



ヴィヴィ

おはようございます、司祭長様。



ネル

ヴィヴィさん、今日は少し早く来られましたね。



ヴィヴィ

なんとなく……早く目が覚めましたの。



ヴィヴィ

あの、司祭長様。以前お願いしたこと……
覚えていらっしゃいますか？



ネル

もちろんです。覚えていますよ。



ネル

ヴィヴィさんが奉仕活動をしている間、銀石公を
見ていてほしいということですよ？



ネル

約束通り、お世話いたします。



ヴィヴィ

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。



ネル

これ、女王様が幼かった頃を思い出しますね。



ヴィヴィ

その……今日はどこを掃除すればよろしいですか？



ネル

以前と同じように、花壇をお願いします。



ヴィヴィ

お任せくださいませ。
掃除には自信がありますわ。



ネル

ヴィヴィさんったら、今日はやけにやる気に満ちていますね。
私もそろそろ書類仕事を始めましょうか。



ネル

銀石公、退屈でも少し我慢してくださいね。



ネル

ん？ 今、動きましたか……？



ネル

あの、銀石公？



ネル

うーん、気のせいでしょうか？



ネル

まあ、卵が動くはずなんて……
仕事で疲れているのかな……。



アイシア

これ、ちょっと面倒なことになったわね？



シーザー

どうして？ 何があったんだ？



アイシア

ヴィヴィが司祭長に卵を預けて、
奉仕活動に行ったのよ。



アイシア

本来の計画は、ヴィヴィが席を外した時に、
卵だけをさっと盗むことだったのに！



アイシア

今日は巡回してる警備兵も少ないから、
大丈夫だと思ってたのに……。



シーザー

むしろ好都合なんじゃないか？
司祭長だけをどうにかすればいいんだろ。



アイシア

ねえ！あんた司祭長を甘く見てない？隙だらけに見えても、
それなりに几帳面なのよ。



シーザー

はあ、だからあんたは二番手なのよ。
頭を使いなさい、頭を。頭は飾りなの？



アイシア

何だと？最強とか言いながら、やってることはただの小悪党の
お前が言えたことか？



アイシア

そんなに偉そうに言うなら、解決策でも言ってみろ！



シーザー

解決策？ 当然あるわよ。とっておきの方法がね。



アイシア

何だ？ どんな方法だ？



シーザー

特別に教えてあげるから、よく聞きなさい。



アイシア

お？ いいじゃないか。お前、少しは頭が回るな？



シーザー

あははっ！ 私が賢いんじゃなくて、あんたが間抜けなだけよ！



アイシア

おい！ 言いたい放題だな？！



ネル

午前の仕事はだいたい終わりましたし……。



ネル

そろそろ小腹が空きましたね。何か食べてからにしましょうか。



ネル

この前買っておいたマシュマロマカロンがあるので、
それでも少し……。



ネル

ええと……このあたりに隠しておいたはずですが……。



ネル

あはは……ちょうどマカロンを切らしていたようですね。



ネル

銀石公、これからお昼休みなので少し休みますね。



ネル

何かおすすめのお昼はありますか？



ネル

まあ、銀石公もマカロンが食べたいのですか？
なんてことでしょう、気が合いましたね。



ネル

この機会に、エシュールのパン屋でマカロンを
手に入れてみましょう。



ネル

どうですか？ 銀石公。本当に平和な場所でしょう？



ネル

エルフィンランドは、エーリアスで最も由緒ある王国なのですよ。



ネル

世界樹に選ばれた、立派で聡明な私たちのエルフィン女王様が治めている場所だからそうなのです。



ネル

エルフィンランドの民は皆、そんな女王様を尊敬し、心から従っているのですよ。



ネル

最近も、私たちの女王様が見事な裁きを……。



ネル

少し待ってくださいね、銀石公。電話に出ます。



ネル

はい、司祭長ネルです。どちら様ですか？ 知らない番号ですが……。



シーザー

おい、司祭長！ 大変だ！ 大変！



ネル

え？ いったいどなたですか？



ネル

うーん、何だか怪しいですね？ 迷惑電話でしょうか？
また女王様に変な保険に入ったわけではないですよ。



シーザー

今そんなことが重要なの？
エルフィン女王が倒れたって言うてるのよ！



ネル

じょ、女王様が?! どうしてですか？



シーザー

私と鬼ごっこしたら、街灯に頭を
ぶつけたの!!



ネル

街灯に頭を? 本当に大丈夫なんですか?
どこですか?



シーザー

裏路地! 裏路地よ! 早く来て!
今、泡を吹いて倒れてるの!



ネル

ど、どうしましょう! 私たちの女王様!!
今そちらへ向かいます!



ネル

はあっ、はあっ……! 女王様! 女王さまあ!!



ネル

どちらにいらっしゃるのですか？ 女王様ー！！



ネル

あの！ 到着しました！ 女王様はどちらに
いらっしゃるんですか？



シーザー

すぐ前よ！ もうほとんど着いてる！ こっちへまっすぐ
走ってきて！



ネル

分かりました。すぐ行きます！



アイシア

ははっ、よくやったわ、シーザー。



ネル

ん？ あの、着いたんですけど、女王様は
どこに……。



アイシア

そこでぐっすり眠っている。



シーザー

ほお？ あの乱暴な司祭長が一発で倒れるとはね。



シーザー

フロストノヴァの麻酔薬、性能最高じゃない？



アイシア

当然でしょ！フロストノヴァの技術力を何だと思ってるの。この麻酔薬一滴あれば、巨大グマだって眠らせられるわ。



シーザー

そんな麻酔薬を司祭長に使うとは……。



シーザー

容赦がないな！さすが、悪辣なエルフらしい！
あははっ！



アイシア

ははっ！このくらいやってこそ、大企業のCEOに
なれるのよ。



アイシア

さあ、シーザー。卵を回収して。



アイシア

まだやるべきことが山ほど残っているんだから。

第5章 襲い来る危機 終

CHAPTER
6

第6章 幼き日の傷

セバスチャン

あの……
クロエ……。



クロエ

ん？ どうしたの、セバスチャン。
ちょっと待って。これだけ仕上げるから。



クロエ

一番大事な作業なんだから。



クロエ

まったく、妖精たちも気が強いんだから。



クロエ

あちしが銀石ちゃんにプレゼントした服を破るなんて。
考えるほど腹が立つわ。



クロエ

はあ、それにヴィヴィももどかしいのよね。



クロエ

あんなにいじめられてるのに、
どうしてわざわざ散歩に出るのよ。



クロエ

大人しく謹慎しても足りないくらいなのに、ベビーカーまで押して出かけるから、余計に標的にされるでしょ。



クロエ

そのせいで銀石ちゃんまで危なくなるじゃない。



クロエ

本当に、バカみたいなんだから。



クロエ

できた！新しく作ったマフラーもいい感じね。



クロエ

よし、銀石ちゃんに送るプレゼントも全部できたし。



クロエ

このまま箱ごと、こっそり扉の前に置いてこよう。



クロエ

……お姉ちゃんたちと仲直りする気はないのかって？



クロエ

……よく分からない……。



クロエ

分かってる、分かってるよ。私が悪いってことくらい。



クロエ

でも、どこからどう謝ればいいのか
分からないのよ。



クロエ

あの日、私が失敗したことも分かってるし、
シオンお姉ちゃんが怒るのも当然だって分かってる！



クロエ

あちしだって罪悪感はあるんだから。



クロエ

でも……シオンお姉ちゃんもひどくない？



クロエ

どうしてあの日から、電話一本もないわけ？



クロエ

まさか一生、縁を切って生きるつもり？



クロエ

はあ……あちしだって仲直りしたいのよ。



クロエ

先に歩み寄れって？ それは嫌。プライドが傷つく。



クロエ

あちしだって、自分が意地を張ってるのは分かってる。



クロエ

でも、あちしは元々こうだったの。
荒野を出てからずっと！ あなたも知ってるでしょ。



クロエ

荒野で目を覚ました時は……



クロエ

あちしだって怖かった。あちしだって寂しかったのよ。



クロエ

お姉ちゃんたちがどこにいるか分からないし、妹たちがいつ目覚めるかも分からないし、
時間が経つほどお腹は空くし。



クロエ

だからあちし、あなたに妹たちを任せたくない……。



クロエ

なのに、よりによってあなたが私をこっそり追ってきて。



クロエ

うん、この話はやめよう。



クロエ

謝らないで……。
時間が経てば、全部よくなるはずだから。



クロエ

仲直りは、その時になってからすればいい。



クロエ

そう……それでいいのよ。



クロエ

とりあえず外に出て、プレゼントを届けてこよう。



クロエ

あれ？
司祭長？



クロエ

ちょっと待って。あれ、銀石ちゃんじゃない？



クロエ

司祭長がどうして銀石ちゃんを連れてるの？



クロエ

あれ？電話中じゃない。何だか慌ててるみたいだけど？



ネル

裏路地のどこですか？女王様は無事ですよ？



ネル

意識がないんですか？どうしましょう！私たちの女王様！



クロエ

何？女王様が倒れたの？



クロエ

あちしとセバスチャンも行ってみよう。



クロエ

司祭長、歩くの本当に速いわね。



クロエ

はあ、はあ、いったいどこへ行ったの？



シーザー

ほお？あの乱暴な司祭長が一発で倒れるとはね。



シーザー

フロストノヴァの麻酔薬、性能最高じゃない？



クロエ

何よ。あいつら、司祭長を倒したの？



クロエ

司祭長が探してた女王様はどこへ行ったわけ？



アイシア

さあ、シーザー。卵を回収して。



アイシア

まだやるべきことが山ほど残っているんだから。



クロエ

あれ？ あいつらが回収しようとしてるのって……銀石ちゃんじゃない？



クロエ

まさか……銀石ちゃんを盗もうとしてるの？



クロエ

ああ、もう！ ヴィヴィ、何やってるのよ？



アイシア

全部積んだなら、すぐ乗って。
ここに長くいても、いいことないでしょ。



シーザー

ああ、そうだな。司祭長が起きる前にずらかろう。



クロエ

ヴィヴィのやつ、まさか奉仕活動をするからって
銀石ちゃんを司祭長に預けたの？



クロエ

いーっ！ 本当に……これじゃ私がまた出るしかないじゃない？



クロエ

行くよ！ セバスチャン！



アイシア

うわああっ！ 何だ、これは？！



アイシア

きゅ、急に飛び出してきた私の車を——！！



クロエ

おい、あんたたち。銀石ちゃんを持って何してるの？



アイシア

お、お前は！ 仕立て屋の妖精？！



シーザー

何だ？ 知ってるやつなのか？



アイシア

当然知ってるわ。思ったより気の強い妖精よ。



クロエ

あ？ あんた、言いたい放題ね？



アイシア

ひゃっ！ シーザー、プランBよ！ プランB！！



シーザー

プランB？ ああ、フロストノヴァへ撤退？
オーケー！



アイシア

このバカ！それを言ったらどうするのよ！



クロエ

撤退？あちしが大人しく逃がすと思う？



アイシア

シーザー、止めて！何とかして止めなさいよ！



シーザー

あんな無茶苦茶なやつを止めろって？



アイシア

最強のヴィランなんでしょ！あんなやつ一人も止められないわけ？



クロエ

へえ？止める気？



シーザー

あははっ！止めたんじゃない、受け流したんだ！



アイシア

よ、よくやったわ！シーザー！卵は私が持っていくから、適当に足止めして！



クロエ

あ？あんた、そこで止まりなさいよ。



シーザー

どこへ行くつもりだ？ お前の相手は、この最強の――



クロエ

そこをどかないの？！



シーザー

おい！ 話してる途中で攻撃なんて！ 反則だぞ！ 反則！！



クロエ

邪魔しないで、どいて！！



シーザー

あははっ！ するなと言われると、もっとしたくなるものだろ。



シーザー

あいつを捕まえたいなら、まず私を倒すことだな！



クロエ

あ？ これを全部防ぐの？



クロエ

はあ、本当に！ 馬鹿みたいに力だけはやたら強いんだから！



シーザー

はあっ、はあっ！ いいだろう、特別に私の敵として認めてやる。



シーザー

お前、仕立て屋の平凡な妖精にしてはなかなかやる。



クロエ

何よ？ あちしとセバスチャンの一撃を受けても立ち上がったの？



シーザー

だが、お前の攻撃は単調で単純すぎる。



シーザー

それに、それは人形だろ？



シーザー

人形では私のハサミには勝てない！



クロエ

勝てない？



シーザー

そう。私の能力のほうが相性的に有利だ、ということだ！



クロエ

はっ、話にもならないこと言ってるわね。



クロエ

あっ？ もうあそこまで逃げてるじゃない！ このままだと見失う！



クロエ

セバスチャン、今回は畳みかけて終わらせるよ。



シーザー

う、うわああっ！！卑怯だぞ！人形との挟み撃ちなんて！



クロエ

いける！効いてる！相手はドジョウみたいに避けてばかり！



クロエ

このまま押し切れればいい！一発でも当てれば……



クロエ

あちしの勝ちよ！！



クロエ

よし！届く！このまま押さえ込んで……！！



シーザー

あははっ！引っかったな！



クロエ

……！！



クロエ

な、何よ……これ？



クロエ

あり得ない。セバスチャンが切られるなんて？



シーザー

この私の必殺技！ 枝切りだ！ あははっ！



クロエ

セバスチャン！！



クロエ

セバスチャアアン！！！！

第6章 幼き日の傷 終

CHAPTER
7

第7章 言えなかった本心



クロエ

セバスチャアアン!!!



シーザー

はあ、はあ……おい……今回の勝負は私の勝ちだ。



シーザー

言っただろう。ハサミは人形に勝つとな。



クロエ

……!!



シーザー

もう退け。お前はすでに敗北した。



シーザー

行って、お前の大事な人形でも拾ってこい。修理くらいはしてやらなきゃならないだろ。



クロエ

あんた! あんた本当に!!



シーザー

はあ？ たかがこんな挑発に乗るのか？



シーザー

最高のコンディションで挑んでも勝てるかどうか分からないのに、
そんなふうは無策で突っ込んでくるのか？



シーザー

ちっ、どうしてそこまで情けないんだ。



シーザー

今日はここまでだ。今のお前は、これ以上先には
進めない。



クロエ

今、言いたいことはそれだけ？



シーザー

しっかりしろ、この馬鹿。一度負けたからといって、
終わったわけじゃない。



シーザー

本当の敗北は倒れた時ではなく、
諦めた時だ。



シーザー

倒れたまま終わらせるな。



シーザー

一人で背負いきれないなら、仲間を頼れ。



シーザー

自分の限界を認めて、仲間に背中を
預けろ。それも実力だ。





クロエ

……。



クロエ

こいつ、自分で切っておいて、何で説教なんか始めてるのよ？



シーザー

もう一度立ち上がれ。



シーザー

そして次は、お前のすべてを懸けてもう一度挑んでこい。



クロエ

あ？ 本当に一発殴ってやりたいんだけど……。



シーザー

それじゃ、また次に会おう！



シーザー

その時はどうか、この私を楽しませてくれよ！
あははっ！



クロエ

セバスチャン！！ 動ける？



クロエ

完全にボロボロじゃない！本当に大丈夫なの？

セバスチャン

大丈夫……だ……。



クロエ

何が大丈夫なのよ！！完全にめちゃくちゃじゃない！



クロエ

少しだけ待って！あちしがすぐ、すぐに直してあげる！



クロエ

裁縫キットが……あった。



クロエ

黙ってて！今はあなたのほうが大事
なんだから。



クロエ

ごめんって？違うよ、あちこそ……ごめん。



クロエ

さっき怒ったことも……。



クロエ

あちしが……余計に荒野の時の話を持ち出した
みたい。



クロエ

セバスチャン。本当は……あちしも一日でも早く
あの洞窟から抜け出したかったの……。



クロエ

だから逃げたの。あなたにイードと
未っ子を任せたって言い訳して。



クロエ

無責任にあなたへ全部押しつけておいて……私は
無責任なお姉ちゃんたちとは違うって……。



クロエ

あちしは堂々としてる。恥じることなんて
ない。そう信じたかったんだと思う。



クロエ

そうしないと、あちしのほうがマシに見えたから。



クロエ

……。



クロエ

はあ……認めてみると、少しすっきりするね。



クロエ

もうほとんど終わったよ、セバスチャン。



クロエ

できることは全部やったけど……どう？



クロエ

動かしてみて。大丈夫？



クロエ

あ……大丈夫ならよかった。本当に。

セバスチャン

ありがとう……クロエ……。



クロエ

セバスチャン。こんなことしてる場合じゃない。



クロエ

早く、お姉ちゃんのところへ行って知らせなきゃ。



クロエ

ヴィヴィのところへ行くのかって？ うん、そうしないと。



クロエ

あっ！ 司祭長！ まず司祭長から起こそう！
それからお姉ちゃんのところへ行くの。



クロエ

おい、司祭長！ 今、寝てる場合じゃないでしょ！



ネル

……。



クロエ

もどかしいな、本当に！ いい加減起きなさいよ！



ネル

……すやすや……。



クロエ

いったいどれだけ深く眠ってるのよ？！



クロエ

ああ、どうしよう？ こんなことしてる時間もないのに……。

ネッツ

止まれ！ 止まれ！ 動いたら撃つ！



クロエ

あ？ 警備隊？

ネッツ

隊長。怪しい者を発見しました！



ポーラン

キャスター、ネッツ！ 百二十度で包囲……ん？
……クロエ？



ポーラン

クロエ、ここで何をしていた？それに
司祭長はなぜ倒れているんだ？



クロエ

あちしがやったんじゃない！アイシアに
やられたの！！



ポーラン

アイシア？ エルフ都市のあの……会長のことか？



クロエ

そう！ あのフロストノヴァの会長！



ポーラン

エルフの会長が、なぜ司祭長を……？



クロエ

襲撃したの！ 卵を盗むために！



ポーラン

卵？ 卵というと……ヴィヴィが連れていた、あの
銀色の卵のことか？



クロエ

そう、その卵よ！



ポーラン

クロエ、事件の目撃者として状況を具体的に説明しろ。



ポーラン

誰が、いつ、どこで、何を、どうやって、なぜ！



クロエ

ああもう！ いちいち説明してる時間はないの！
あとでちゃんと説明するから！



クロエ

今は一刻を争うの！ このまま卵に何かあったらどうするつもり？



ポーラン

……。



ポーラン

はあ……分かった。普段のお前の評判を考えて、ひとまず信じることにする。



ポーラン

その代わり、あとできちんと説明してもらおうぞ。
分かったな？



クロエ

うん！ ありがと、警備隊長！ 司祭長を
お願い！



ポーラン

おい、ネッツ！ 司祭長は大丈夫か？

ネッツ

それが……眠っています……。



ポーラン

眠っているだと？ 他の妖精たちと同じように？

ネッツ

それはよく分かりません！



ポーラン

どけ。私が確認する。



ネル

……。



ポーラン

先に眠っていた妖精たちと同じく、反応がないな。



ポーラン

ネッツ！ 司祭長を運べ！ ただちに教団へ
戻る！

ネッツ

はい！！



ポーラン

エルフの会長は何を企んでいるんだ？
司祭長まで襲撃して、なぜ竜族の卵を？



ポーラン

その過程で、よりによって司祭長が眠るとは……。



ポーラン

何が何だか分からないな。この「連続ぐっすり
事件」の行方は、いったいどこへ向かうのだ？

第7章 言えなかった本心 終